

目次

	ページ
1. はじめに	2
2. 活躍する仲間	
第51回全国高等専門学校体育大会	3~6
平成28年度全国高等学校総合体育大会少体寺拳法競技大会 兼 第43回全国高等学校少体寺拳法大会	6
アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2016 東海・北陸地区大会	7
全国高等専門学校 第27回プログラミングコンテスト	8
平成28年度理数グランプリ	8
第9回円数グラフアートカンファレンス	9
第40回全国高等学校総合文化祭将棋部門 兼 第52回全国高等学校将棋選手権大会(広高大会)	9
第40回全国高等学校総合文化祭吟詠剣詩舞部門(広島大会)	10
第29回全国高等学校将棋竜王戦(福岡)	10~11
第23回全国高等学校専門学校将棋大会(群馬)	11
第48回福井県吹奏楽コンクール 兼 第64回全日本吹奏楽コンクール福井県予選	11
保育ボランティア	12
オムロン・高専機構共同教育プロジェクト 平成28年度生産技術コンテスト	12
第52回高専祭	13
球技大会	14
弁論大会	15
高専祭写真真集	15
クリーン大作戦	16~17
防災交流	18
平成28年度 キャンパスプロジェクト概要一覧	18
平成28年度 キャンパスプロジェクト概要一覧	19
3. 学生の将来と進路	
進路決定について	19
平成28年度進路内定状況	20
大学編入学試験体験記	21
就職試験体験記	21
インターンシップ体験記(本科)	22
インターンシップ体験記(専攻科)	22
ISTS2016に参加して	23
タイ王国プリンスオブソクラ大学工学部の 短期留学生を受け入れて	24
専攻科生による校外発表会(北陸技術交流テクノフェア)	24
専攻科生による校外発表会(北陸技術交流テクノフェア)	25
4. 中学生の皆さんへ	
キャンパスツアー2016及び キャンパスリサーチ2016の実施について	26
中学校だより	27
5. 学園通信	
救急救命講習会・実技講習会	27
平成28年度防災訓練の実施	28
平成28年度学寮防災訓練の実施	28
本校に着任して	29



はじめに

行動できる人たれ ～防災訓練を振り返って～

学生主事 辻子裕二

後期に入って早々の10月5日、平成28年度の防災訓練が行われました。台風18号を警戒し地震車による地震体験等は見送られましたが、発災時の初動対応及び避難訓練については遂行できました。ここで、同訓練を少し振り返ってみましょう。

本校の防災訓練の“想定”はわかっていますね。地震とその後の火災がハザード（災害の原因、外力）でした。教室の窓は、地震時には出口確保のために開け、火災時には延焼防止のために閉めることは理解していることと思います。一方で、なぜグラウンド（今回は体育館）に逃げるかについて正しく理解しているのでしょうか。

防災には“想像力”が必要とされます。自分がその時どのようなことになるのかを具体的に想像することで、事前対応（防災）が可能となるわけです。以下では、今年度の防災訓練を想像しながら振り返ることにします。

この度の訓練では、まず地震が起きました。震度5強の揺れです。みなさんはJアラートで緊急地震速報を聞くことになりました。本番なら、教室中の携帯電話が鳴り響くことでしょう。幸いにして震源が遠いことから、揺れが本校に到達するまでに10秒程度猶予がありました。揺れに備え、机の下に身を収め、机が飛んで行かないよう脚を対角に持っています。先生方は学生の安全を確認しつつ、教卓内に身を潜めます。簡単にできると思っていたこの単純な行動も、自分の体格では机の下に収まりきれないことに気がきます。仕方なく頭部だけでも守ることに切り替え、頭隠して尻隠さずの状態揺れを待ちます。幸い、最初の揺れで大きな被害は出ていないようです。数分続いた揺れが一旦収まったのち、火災報知器が作動します。「誤報かな？」と思う間もなく、火災発生放送が流れます。幸いが重なり、放送設備が利用できる状態だったようです。偶然にも事前に避難場所が体育館だとわかっていたため、また、煙が出ている様子もないため、発火場所をそんなに気にせずに体育館に向かうことにしました。体育館

では互いの生存を喜び合い、安堵から少し笑みがこぼれます。ほどなくして、授業の途中でトイレに行ったクラスメートがいないことに気がきました。「先生、〇〇君がいません。どこかに閉じ込められているかも」

さて、あなたが体験した訓練と何か違ったことはありますか？

それでは、解答編に移りましょう。なぜグラウンドや体育館に避難するのか。大きな理由を3つ示します。

- ①とりあえず最初の地震に耐えた校舎も、余震で倒壊する可能性があります。これを回避するため、より安全な場所に移します。
- ②誰を助けなければならないのかを把握するため、安否確認（点呼）を行います。
- ③火災による中毒死を防ぐため、火元から遠く（風上）へ移動します。

ハザードが洪水である場合はどうでしょう。本校のグラウンドや体育館は本館棟と比べやや低い位置にあります。当然、洪水の際にグラウンドに避難することは避けなければなりませんね。大雪のときはどうでしょうか？竜巻や雷が発生したときは？台風の中で地震が発生したときは？

このように、いろいろ考えておくべきことがあります。おそらく、学生諸君はこれを読むだけで“すべきこと”は理解できたと思います。大切なことは、理解するだけでは防災にならないということです。行動が伴う必要があるということです。緊急地震速報を聞いたなら“机の下に隠れる”必要性は理解していたはずですが、しかし、今回の訓練でその行動がとれなかった人もいるのではありませんか。上述のように“幸い”が重なることは極めて希なことです。これを踏まえた上で、より精緻な想像力を発揮し、理解し、行動できるひとになってくれることを期待しています。

第51回 全国高等専門学校体育大会に参加して

全国高専大会に出場して

卓球部 4C 鈴木 優

卓球の北陸地区の高専大会は7月2日、3日に行われました。この大会では各種目で優勝した人が全国大会に出場でき、私はシングルス、ダブルスで優勝し愛知県で行われた全国大会に出場しました。

今年の全国大会は8月20日、21日に愛知県豊田市で行われました。全国大会に出場するのは今年で4回目でした。今年は自分の苦手なところを中心に練習し、例年よりもハードなトレーニングをして試合に挑みました。

予選リーグ3戦、決勝トーナメント1戦は順調に勝ち上がりました。決勝戦は広島商船4年の藤井さんと対戦でした。2セットを選手したが、そこから勝ち急いでしまったので自分のミスが増え、2セット失ってしまいました。

最終セットは、お互いにミスが減りなかなか得点を決めることができませんでした。どっちが勝ってもおかしくない状況で、ぎりぎり勝つことができてほっとしました。

しかし、練習中のプレーが緊張感のある試合でできずとても悔しい思いをした試合でした。

緊張感のある中で自分のプレーができるよう練習中も意識を高く持ち続けて取り組み、来年も優勝したいです。



初めての全国大会に出場して

剣道部 4E1 朝倉 大賀

8月27日、28日に行われた第51回全国高専体育大会に、男子剣道部として、実に3年ぶりに出場しました。自分にとっても、初めてとなる全国大会でとても緊張

しました。いざ、会場に入ると会場の雰囲気や他の学校の選手や稽古の様子を見て、緊張感が高まり、自分の中の闘争心も上がりました。緊張している中で、自分の剣道があまり出来ませんでした。結果も、決して満足のいくものではなく、自分の試合をふり返ってみても多くの課題が見つかりました。今回の全国大会で見つかった自分の課題や全国大会に出場している学校や選手の試合を見て参考になったものを日々の稽古や試合で生かしていけるようにしていきたいと思えます。来年の全国大会には、個人としてはもちろんのこと、約40年ぶりとなる団体での出場も出来るようにチームとしても志気を高められるように日常生活でも部活動でも日々精進していきたいです。全国大会に出場するには、まず、北陸地区での高専大会で、他の学校に勝たなくてはなりません。そのためにも、他校に勝てるように頑張っていきたいです。



全国高専大会で感じたこと

水泳部 4E 又農 智史

福井高専水泳部は、今年は出場者及びその補欠を含む全12名で富山県で行われた高専全国大会に行ってきました。

キャプテンとしての感想は、全国大会というもあり、部員の頑張り度はいつも以上に高まっていて、よかったと思いました。課題としては、やはり場慣れが周りの高専のスイマーよりもできていないことと福井高専水泳部としての一体感が周りの高専よりも少し欠けているところです。場慣れは、大きい大会の経験の数が物を言うので、部員一人ひとりの日々の練習に期待したいです。一体感に関しては、私自身の責任でもあるのですが、周りの高専よりも特に応援への積極さが少し欠けていました。練習だけでなく、そういうと

活躍する仲間

ころも意識できてこそ福井高専のスイマーなので、変えていけたらなと思います。

福井高専水泳部は、規律が守れる、実力のあるスイマーとして戦えるよう頑張りますので、応援よろしくをお願いします。

全国高専大会に出場して

陸上部 3E 鈴木 朋和

陸上の北陸地区大会は7月2日に福井県営陸上競技場にて行われました。地元の福井で開催ということで自分を含めた多くの部員がやる気に満ちていました。走幅跳での結果は優勝でしたが、記録は富山高専や石川高専の5年生達と接戦だったので気を抜けない展開でした。

全国高専大会は8月24日に愛知県で行われました。当日は良いコンディションで、表彰台に乗れるベスト8を目標にして挑みました。しかし、結果は12位でした。悪くない結果ですが、自分はこれに満足できず、心残りのある試合となりました。

今年の経験を踏まえ、来年に向けて大きな目標ができました。個人では走幅跳を北陸地区で2連覇し、今度こそ全国大会で入賞することです。チーム目標は一人一人が今年よりも点数を多く取り、まずは北陸地区で総合2位に昇格すること、そして一人でも多く全国大会に出場することです。今まで多くの先輩方にお世話になったので、今度は自分が後輩達を指導していきたいと思います。来年も引き続き陸上部を応援して下さいますようよろしくお願いします。



全国高専大会に参加して

柔道部 3E1 稲葉 榛子

私は、8月27～28日に石川県立武道館にて行われた第51回全国高等専門学校体育大会 柔道競技に出場しました。

私はこれで3回目の全国高専大会となり、出場するにあたって、試合はもちろんですが、他の高専生との

交流を深めるいい機会だと思ったので参加しました。柔道競技は女子の選手が少ないため、合同練習や、試合中お互いに応援したり励ましたりしました。たくさんの人と仲良くなれてとても有意義な時間となったと思います。

自分の試合がまわってきて、対戦相手は私よりも一回りほど体格が大きく、強豪校の選手でした。昨年と同じ相手で試合直前、負けるかなと弱気でした。でも、同じ負けなら、いい試合をしたい、自分から攻めていきたいと思い試合に臨みました。結果は、残念ながら破れてしまいましたが、目標としていたいい試合ができたのでよかったなと思いました。

来年は今年よりもいい試合をして、勝ちたいです。そのために普段からの筋トレ、稽古に励みたいです。

第51回全国高等専門学校体育大会に参加して

硬式野球部 主将 5C 嘉 満 亮太郎

私達福井高専硬式野球部(3・4・5年生で構成)は全国大会に主催校枠として出場した。本来なら北陸大会で優勝して出場したかったのだが極度の練習不足のため点数が取れず結果は5チーム中4位だった。それどころか練習試合でも勝ったことがない最弱のチームだった。このままでは全国大会でも簡単に負けてしまうということで夏休み返上で猛暑の中練習に取り組んだ。そして挑んだ初戦の相手は後に準優勝した豊田高専。練習試合では大差で負けた相手だ。福井高専は主力を2人怪我で欠きながらも序盤にリードを奪い、北陸大会では貧打だった打線が4年三宅の3打席連続ホームランを筆頭に7得点と奮起した。結果は7対9と負けてしまったが最後まで全員野球で戦うことができた。チーム全員が声を掛け合い、盛り上げ、最後まで諦めずプレーできていて高専5年間で1番楽しい試合だった。夏休みに猛練習をして本当に良かったと思えた。最後になりましたが、支えてくださった先生方、家族、共に闘った仲間感謝したい。



第51回 全国高等専門学校体育大会成績

◎陸上競技

(平成28年8月24日～25日)
パロマ瑞穂スタジアム

【走幅跳】

鈴木 朋和(3E) (記録) 6m 19cm (12位)

◎野球

(平成28年8月27日～28日)

丹南総合公園野球場

2回戦 福井高専 7-9 豊田高専

◎卓球

(平成28年8月19日～21日)

スカイホール豊田

【女子団体(地区対抗団体戦)】オープン競技

東海・北陸地区(福井・沼津・岐阜)	3-0	関東・信越地区
東海・北陸地区(福井・沼津・岐阜)	3-1	中国地区
東海・北陸地区(福井・沼津・岐阜)	1-3	東北地区

(準優勝)

【女子ダブルスの部】

〈予選ブロック〉

藤田 瑞姫(5B)・鈴木 優(4C)	3-0	香川高専
藤田 瑞姫(5B)・鈴木 優(4C)	3-0	茨城高専
藤田 瑞姫(5B)・鈴木 優(4C)	3-0	豊田高専

(1位通過)

〈決勝トーナメント〉

藤田 瑞姫(5B)・鈴木 優(4C) 0-3 高橋・岡部(福島高専)

〈3位決定戦〉

藤田 瑞姫(5B)・鈴木 優(4C) 3-0 岩崎・宮本(徳山高専)
(3位)

【女子シングルの部】

〈予選ブロック〉

鈴木 優(4C)	3-0	吉田 実桜(都城高専)
鈴木 優(4C)	3-0	大平 瑞季(長野高専)
鈴木 優(4C)	3-0	安藤 綾香(豊田高専)

(1位通過)

〈決勝トーナメント〉

準決勝

鈴木 優(4C) 3-0 猪狩 栞菜(福島高専)

決勝

鈴木 優(4C) 3-2 藤井 未来(広島商船)
(優勝)

◎剣道

(平成28年8月27日～28日)

スカイホール豊田

【女子団体の部】

リーグ戦第1試合 福井高専 1-2 新居浜高専

リーグ戦第2試合 福井高専 1-2 松江高専

(敗退)

【男子個人の部】

1回戦 朝倉 大賀(4E) 1-0 佐々木識之
(釧路高専)2回戦 朝倉 大賀(4E) 0-1 恒川 大輔
(近畿大学高専)

【女子個人の部】

1回戦 早瀬 夏貴(4E) 0-1 中井 亜紀
(高知高専)2回戦 西村 心(F2) 1-0 境田 知佳
(豊田高専)準々決勝 西村 心(F2) 1-2 中島 圭那
(松江高専)

◎柔道

(平成28年8月27日～28日)

石川県立武道館

【男子個人の部】

60Kg以下級

田中 太樹(F1) 送襟絞一本負 渡部 伸介
(松江高専)

【女子個人の部】

63Kg超級

稲葉 棕子(3E) 横四方固一本負 傍嶋 美月
(岐阜高専)

◎水泳

(平成28年8月21日)

富山県総合体育センター

【男子50m自由形】

三村 歩(2E) (記録) 27秒69 (23位)

【男子200m個人メドレー】

定兼 拓永(2B) (記録) 2分24秒78 (10位)

【男子100m平泳ぎ】

佐々木祐輝(2M) (記録) 1分14秒37 (14位)

【男子100m自由形】

三村 歩(2E) (記録) 1分03秒75 (23位)

【男子100m背泳ぎ】

定兼 拓永(2B) (記録) 1分05秒06 (10位)

活躍する仲間

【男子400mメドレーリレー】

定兼 拓永(2B) 佐々木祐輝(2M)
立壁 涼虎(3B) 三村 歩(2E1)
(記録)4分24秒85 (9位)

【男子200m平泳ぎ】

佐々木祐輝(2M) (記録)2分59秒98 (8位)

【男子200m自由形】

立壁 涼虎(3B) (記録)2分04秒22 (5位)

【男子400m自由形】

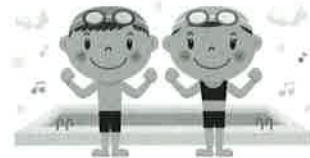
立壁 涼虎(3B) (記録)4分21秒38 (6位)

【女子100m自由形】

八田 朱里(4C) (記録)1分12秒33 (14位)

【女子200mリレー】

宮本 紗樹(5B) 蓑輪 奈穂(2E)
橋本 莉乃(F5) 八田 朱里(4C)
(記録)2分05秒44 (4位)



平成28年度全国高等学校総合体育大会 少林寺拳法競技大会兼第43回全国高等学校少林寺拳法大会に参加して

初めての全国大会(インターハイ)

新幹線に乗り約3時間、岡山へ。私は全国大会(インターハイ)に出場しました。初めての地に期待と不安が入り混じったような気持ちでした。

駅に到着し、車に揺られて会場に。会場に入ってまず驚いたのは人の多さです。到着を待たずの近い人がたくさん、しかも今まで経験してきた大会とは全然違う雰囲気、緊張しました。さらに驚いたのは練習場です。大会の会場とは別に練習場が二つあったのですがその人の多さが、声の大きさが、熱気がとても大きくて圧倒されました。どちらの練習場も人がぎっしりでどうにか自分の練習ができそうなスペースを探すのですが周りの声、動きがやはりすごい!大きく響く声に鍛えられた俊敏な動き、突き蹴りの速さに綺麗さ…。感動とともにこの人たちと同じ舞台に立つと考えると緊張が止まりませんでした。しかし不思議なもので、一回自分も声を出してみると緊張が少しほぐれた気がしました。周りにつられていつもより声もでていたように感じました。

そして、本番。勝負タオルで会場へ。どんな大会でも本番はやはり緊張します。どの選手も練習のときより真剣さ、殺気がすごい。私も負けないように、焦らないように、今出来る精一杯の演武を行いました。しかし所詮まだ緑帯。周り比べて自分の点数が低いことにショックを受けました。ですが、悔いはありません。この大会を通して自分のフォームもよくなったし、声もでるようになったという実感が

少林寺拳法部 2E1 奥村 星香

あるからです。

この大会をばねに練習を積み、また来年リベンジしたいです。



大会成績

◎少林寺拳法競技大会(平成28年7月29日～31日)
宮本武蔵顕彰武蔵武道館

【女子単独演武の部】

奥村 星香(2E1) 246点(予選敗退)

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2016 東海・北陸地区大会に参加して

4年間の集大成

昨年、準優勝ながら全国大会へ出場できず、非常に悔しい思いをしました。この気持ちを、全力で今年のロボット製作にぶつけてきました。結果、優勝は逃しましたが技術賞・ローム賞を頂き全国大会への切符を手に入れました。

4年間全国大会出場を目標にロボコンを続けてきたので非常に嬉しかったです。

しかし、ロボット完成への道のりは大変なものでした。今年のルールは、ロボットが地面に触れずに6m先の台に、ボックスを高く積んだチームが勝ちというものでした。これは例年以上に難しい競技であり、地区大会では強豪校が次々と敗退していきました。そのルールの中で私たちはロボットを3台製作しました。ボックスを取るロボット、ボックスを地面に触れさせずに台まで運んでいくロボット、台に高く積んでいくロボットの3台が同時に動き連携プレーをしていく、というコンセプトでした。設計を一から変更しなければならなかったことや、何度

4M 小 濱 真 宏

改良を重ねてもうまくいかないこともありましたが、粘り強く努力してきました。大会本番では、練習で起きなかったアクシデントが多々ありましたが、優秀なチームメンバーのおかげもあって実力を十二分に発揮できたと思います。

これから、さらにロボットの完成度を上げていき、全国大会で沢山の観客を沸かせるものにしていきたいです。応援よろしくをお願いします。



はじめてのロボコン

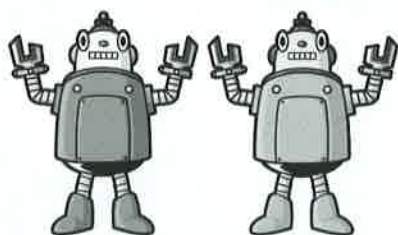
今年初めてチームリーダーとしてロボコンに参加しました。ルールが発表されてチーム全員で話し合い、製作・実験・改良を何度も繰り返し、本番に臨みました。通じて思ったのは、チームをまとめる難しさです。ロボットの方向性を決めるにしても、メンバー全員の意見を聞き入れる。ロボット製作のスピードを考慮したスケジュール管理など、細かな指示や管理が自分に不十分だったと実感しました。

また、自分達の視野の狭さも痛感させられました。他の高専のロボットを見た時、自分達の知らない機構や技術、アイデアが幾つもありました。中には、自分達のロボットをよりよくアレンジしたような機

3M 松 田 英 孝

体もあり衝撃を受けました。また同時に「自分達のロボットをもっとよくできる」、「まだまだ勉強できることがある」とどこか嬉しさも感じました。

今年の戦績はあまり芳しいものではありませんでしたが、それ以上に多くのことを得られました。来年は先輩達に負けたくないよう全国出場を果たしたいです。



活躍する仲間

全国高等専門学校 第27回プログラミングコンテストに参加シマ

プログラミングコンテストを終えて

私はプロコンの競技部門に参加した。今回は木製のパズルが渡されそれを解くというルールで競技を行った。

今回私たちが気をつけたのは、解を探す際の選択肢を減らす方ではなく、一回ごとの探索の時間を短くすることだ。データの保存方法を工夫し、なるべく試行回数をかせごうという戦略だった。サンプルとして運営からもらっていたパズルは非常に細かく、PCに読み取らせるのが難しかったため、結局細かいところは手でデータを入力することにした。

本番ではピースは想定より大きく、ピースの読みとりは非常にうまくいった。しかしパズルを解く側のプログラムとのデータの受け渡しがうまくいかず、パズルをまともに解くことはできなかった。何とか入力でパズルを埋め、自分たちの勉強不足を感じていた。しかし、他のチームも多かれ少なかれプログラムに頼ってはいたものの、結局手動の方が速いというチームばかりであった。

今大会は問題があまりよくなかったらしい。しかし、そんな中でも自分の用意したプログラムで

4E1 大柳 慶 悟

解答している高専はあった。私たちは一回戦を突破することはできたが、この勝利は誇らしく思えるような物ではない。これから私たちはものづくりを続けていくことになるが、自分が誇りに思えるようなものを作っていこうと感じた大会であった。また、自分たちが作品を完成させることができたのは、メンバーの板垣、吉田、そして中後との協力があつたこと、また先生方のアドバイスをや周囲の方々の応援があつてこそだったと思う。皆の協力があつたことを忘れず、今回得られたものを次へ生かしていきたいと思う。



平成28年度理数グランプリに参加シマ

ふくい理数グランプリ出場

私は、環境都市工学科2年・内藤祐大君、電気電子工学科2年・山本真嘉君と3人でふくい理数グランプリ（物理部門）に出場しました。

理数グランプリでは、解き方をレポートにまとめて簡易的に発表を行うため、総合力が問われます。普段の試験勉強だけでは、絶対に通用しません。私たちがももって練習を積み重ねたからこそ、優秀賞を頂くことができました。堅苦しい印象があるかもしれませんが、私たちが出場した部門では楽しい実験や興味深い講義があり、問題の内容に関連したコツを掴むと同時に、緊張をほぐすことができました。今回のメインは光と電気回路でしたが、問題を解くために必要なアイテムは、知識より発想ではないかと思えます。

ここで、最も苦労した問題を紹介します。それは、LEDの受光特性を調べるため、3色のLED本体に同じ3色のLEDの光を当てて、光を受けた側の起電力を計測するというものでした。私たちが含めれば全てのチームが完解までは至りませんでした、

2E1 山 浦 直 樹

素晴らしい発表を行っていました。

福井高専内では、まだまだ知名度が低いようです。今回の入賞を機に、宣伝の意を込めて広めていきたいと思えます。出場できるのは1,2年生です。1年生の皆さん、来年、ぜひ出場してみませんか？

また、来年入学する中学3年生の後輩たちにも、勧めてほしいと思えます。



第9回 関数グラフアートカンファレンスに参加して

関数グラフアートカンファレンスに参加して

4C 南 後 桃 羽

8月の末、私は第9回グラフアートカンファレンスに参加しました。

他の方の作品が誕生するまでの過程、こだわり、工夫を知ることができる、貴重な時間でした。何より、「グラフで絵を表現する」ことに対する考え方が人によって異なるので、自分にはない視点が新鮮でした。

今回は、簡単な関数でも時間をかけて重ねていけば大体を絵として表現できるのではないかと考え、作品をつくりました。出来上がった作品は一目で何を描いているのか分かる程度となり、この考えは間違っていなかったと思います。しかし、カンファレンスにて他の作品の話聞き、大きく変わりました。どれだけ多くの関数を取り入れて絵を描けるのか、既存の関数をアレンジして新しい表現を見つけることができなにか等、自分では思いよらない方法やテーマで表現していました。

2回目となる今回は、多彩な関数を用い、表現の幅を広げることを目指して製作しました。花を描く関

数、斜めに歪んだ円などを散りばめ、前回に比べ作品の密度が大きくなりました。それでも今回のカンファレンスにおいても新しい刺激がなくなることはありませんでした。いかに少ない関数で物表現するか、グラフの対称性をより美しく生かせないか…。「そんな考え方があったのか」の連続でした。

参加を重ねる度に新しい視点に気付かされるこのカンファレンスは本当に面白いと思います。今年は時間がとれず、製作することができませんでしたが、コンテストの有無に関係なくもう一度チャレンジしたいです。

(写真は、第13回の全国コンテストのポスターに掲載された南後さんの作品です。)



第40回全国高等学校総合文化祭将棋部門 兼第52回全国高等学校将棋選手権大会(広島大会)に参加して

2E1 谷 川 友 基

今年の8月、全国高等学校総合文化祭があった。私の所属する囲碁将棋部は、この文化祭の将棋部門団体戦に参加した。私は、昨年もこの大会で団体戦のメンバーとして出場しており、結果は予選敗退であった。そのため今年は、予選突破を目標としていた。

予選突破の条件は、スイス式で4戦中3勝することである。全国大会でこの条件はかなり難しい。勝てば勝つほど強い相手と当たるし、一度でも負けるとあとがなくなる。

しかし、この厳しい条件の中、私たち福井高専囲碁将棋部は予選を突破することができた。チームメイト一人一人がチームのために頑張ることで、この結果を残すことができたと思う。

決勝リーグでの結果だが、そこは初戦敗退で終わっ

てしまった。ただ、決勝リーグという舞台で戦えたことは、素晴らしい経験だと思っている。

予選敗退から、決勝トーナメント進出。年々将棋部は強くなっていると思う。この勢いで、来年こそは表彰されるような成績を残したい。

最後に、私たちが全国大会に出場するにあたって、サポートくださった方々には大変感謝している。この場をお借りしてその感謝の意を伝えたい。



第40回全国高等学校総合文化祭将棋部門兼第52回全国高等学校将棋選手権大会(広島大会)成績

(平成28年8月2日(火)～3日(水)) 福山ニューキャッスルホテル、福寿会館

【団体戦】 奥田真史(3E1)、谷川友基(2E1)、井上貴仁(2E1)

予選リーグ 3勝1敗 予選通過 (ベスト15)

活躍する仲間

第40回 全国高等学校総合文化祭吟詠剣詩舞部門(広島大会)に参加して

初めて出場した高校総合文化祭

私は今年の8月に広島で開催された全国高校総合文化祭に出ました。7月から本格的に舞いの練習が始まり、曲に合わせて練習を積み重ねてきました。全国の舞台に立つということだったので、先生方は私たちに熱心に指導をしてくださいました。私はみんなの足を引っ張りたくなかったので、先生の言うことをしっかり聞いてきちんと振りができるように、注意されたことを意識しながら練習に取り組みました。時には上手くいかず、夜遅くまで練習していたこともありました。

本番当日は、初めて出る高校文化祭だったし、いつもの舞台の時とは違った衣装だったのでわくわくしました。本番直前にはとても緊張し、手汗が止まりませんでした。だけど、今まで積み重ねてきたことを思い出して、舞台では一生懸命舞いました。無事終わることができたのでホッとしました。また私たち福井県のチームは、優秀賞を取ることができた

吟詠剣詩舞 F2 土山 凜

のでとても嬉しかったです。その時、頑張ってきて本当によかったと思いました。これからも頑張っていきたいです。



第40回 全国高等学校総合文化祭吟詠剣詩舞部門(広島大会)成績

(平成28年8月2日(火)～3日(水)) 広島県立文化芸術ホール

福井県代表 鳥山 佳音(2B)、土山 凜(F2) 文化連盟賞 受賞

第29回 全国高等学校将棋竜王戦(福岡)に参加して

竜王戦

囲碁・将棋部 3Ei 奥田 真史

私は8月17日に行われた全国の高校生の竜王を決める大会に出ました。県大会では、なかなか勝てなかった相手に勝つことができ、初めて全国大会に出場することができました。自分の力がどこまで通用するのかとてもわくわくしていました。しかし結果は予選落ちと、とてもくやしい結果に終わってしまいました。予選であたった相手はもちろん強かったですが、なにより自分の持ち時間が少なく、時間におわれて何回も悪手を指してしまったので、ひどい将棋になったのが一番くやしかったです。

全国大会での空気は県大会などとは違い、一手間違えたら負けと思わせるような感じで、とてもいい経験になりました。

大会を終えて、自分の実力がまだまだであり、時間も切れないようにするなど新しい自分の問題点を

たくさん見つけることができました。今年3年生なので来年は出ることはできませんが、他の一般の大会で勝てるようにしていきたいです。



▶▶▶▶▶ **第29回 全国高等学校将棋竜王戦(福岡)成績** ◀◀◀◀◀

(平成28年8月17日(水)~18日(木)) 電気ビル共創館

【個人戦】 奥田真史(3E) 予選敗退

第23回 全国高等学校専門学校将棋大会(群馬)に参加して

全国高等専門学校将棋大会

囲碁・将棋部 F3 田中聖二

僕たち福井高専囲碁・将棋部は、群馬県で開催されました第23回全国高等専門学校将棋大会に参加をしました。僕は将棋を始めたのが今年の4月で実力もまだまだで、ものすごく弱いので、今回の試合には出られなかったのですが、試合をしている会場の雰囲気は凄くて、試合をしていなくても自分が試合をしたあとのように疲れました。大会の試合を見ていたら、自分がおかないような場所や無駄に思える場所に指す人がいて、なんでそこに指すのか分からなくても、のちのちその一手がとても重要な手になっていたりしたので、自分のレベルの低さをあらためて思い知りました。そんな中で集中して試合をしている先輩たちは凄くて、かっこいいと思いました。結果は団体戦は2試合目で負けてしまい、個人戦は全員予選を突破したものの、谷川先輩以外は1

回戦で負けてしまい、谷川先輩も2回戦で負けてしまいました。僕たち福井高専囲碁・将棋部は、全員一生懸命練習をしてきたのにこういう結果になってしまってとても悔しかったです。僕ももっと練習して、来年の大会には出場し、福井高専が入賞できるようにがんばりたいです。



▶▶▶▶▶ **第23回全国高等専門学校将棋大会(群馬)成績** ◀◀◀◀◀

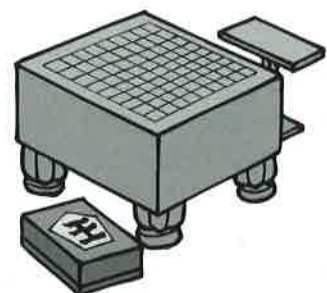
(平成28年8月24日(水)~26日(金)) 前橋中央公民館

【団体戦】

小田樹也(3E)、奥田真史(3E)、
井上貴仁(2E)
予選2回戦敗退

【個人】

三村 優太(5B) (決勝トーナメント1回戦敗退)
谷川 友基(2E) (決勝トーナメント2回戦敗退)
澤崎 宏大(F1) (決勝トーナメント1回戦敗退)
山口 綾友(2C) (決勝トーナメント1回戦敗退)



活躍する仲間

第48回 福井県吹奏楽コンクール兼第64回全日本吹奏楽コンクール福井県予選に参加して

高専の課題

吹奏楽部 4C 木下 明日香

今年度のコンクールは、例年に比べ苦しかったように思います。まず、日程が試験中の日曜日であり、午前中試験を受けて午後から練習で、試験への焦りとコンクールへの焦りで皆の疲労がピークに達していました。また、パートの人数が足りなくて急遽助っ人を頼んだりもしましたが、かなり無理な編成での出場となりました。他にも色々な問題がありましたが、本番ではみんなしっかりと演奏しきってくれました。

高専は、バンドメンバーの大半が高校生の年齢で

あっても大学部門にしか出場できず、レベルの高い大学生に対抗するのは非常に難しいと思います。今年も、4・5年生が6人しかいなくて頼りなかったかもしれないけれど、後輩たちがみんな付いてきてくれたおかげで最後までやり切ることができました。高学年一同、感謝の気持ちでいっぱいです。大学部門に通用する演奏をすることが今後の課題だと思うので、まずは次のアンサンブルコンテストで、パートごとに頑張ってもらいたいです。



保育ボランティアを経験して

子供たちとの触れ合いで気付いた事

4E1 山田 日菜

子供たちとコミュニケーションをとれるかという不安がありました。子供たちの方から積極的に遊びに誘ってくれてすぐに不安はなくなりました。昨年も今年も四歳児のクラスでの活動でしたが、昨年と今年では子供たちの性格、雰囲気、人気の遊びなどの違いがあり、新鮮な気持ちで活動することができました。最初は子供たちの方から誘ってもらい輪に入るという形で遊んでいましたが、活動の後半からは自分から輪に入ったり、話をしたりと自ら動くことができ、より子供たちと仲良くなることができました。このことから積極的に動くことが大切だと気付きました。

学ぶことも楽しいことも多くあったボランティアでしたが、子供たちが自分に親しみをもちて沢山接してきてくれた事が一番嬉しかったです。子供たち

と触れ合うことで心がとても温くなりました。来年も保育ボランティアに参加したいです。



オムロン・高専機構共同教育プロジェクト 平成28年度生産技術コンテストに参加して

生産技術コンテストに参加して(初優勝)

5M 林 田 剛 一

8月23日、28年度生産技術コンテストが開催された。このコンテストは、UFOキャッチャーの様な3軸に自由に移動が出来るロボットを制御して、与えられた課題の成果を発表するというものである。

今年度は、紐で繋がれたサイコロを小さい穴に入れるといった指定課題と、自由に生産システムを構築せよという自由課題が出された。指定課題において、サイコロは少しの振動等で振れる為、早い速度で穴に入れるのは難しいものであった。そこで、振り子の運動理論を用い、サイコロに与えられる限界の速度を自分達で計算し、迅速かつ正確に穴に入るような制御を構築した。自由課題では、寿司職人が巻くようにリアルな巻寿司をつくる制御を実現した(笑)。

大会では、自分達の目論見がはまり、サイコロは、出場チームの中で最速かつ正確に入れることができ、巻寿司を巻いたら笑いを誘うことが出来た。結

果は、初優勝という素晴らしいものとなった。

このような結果を得ることが出来たのも、チームメンバーを初めとして、関わってくださった全ての方々のおかげだと思う。本当にありがとうございました。非常に得るものが多かったこのコンテスト、来年度以降も「やりたい!」という学生が出てくることを期待している。



▶▶ オムロン・高専機構共同教育プロジェクト 平成28年度生産技術コンテスト ◀◀

(平成28年8月23日(火)) オムロン株式会社東京事業所

福井県代表 林田 剛一(5M)、長田 一樹(3M)、山口 滉太(3M) 優勝



活躍する仲間

第52回 高専祭

今年の高専祭も晴れ（最後だけ少し雨）

学生主事補 加藤 敏

本年度の高専祭は10月14日（金）から16日（日）に「Joker~Welcome to Wonderland~」というテーマの下で開催されました。

本年度も実行委員諸君の日頃の行いが良いのか、晴天に恵まれたこともあり、保護者や卒業生をはじめとした多数の来客で大変賑わった高専祭となりました。

昨年度は35軒の出店だった露店ですが、今年は少し減った27軒の出店でした。露店数の減少による学生の参加の減少が懸念されもしましたが、出店したクラスや部活動等の頑張りもあり、これまでのように賑やかな高専祭となりました。各露店の経営はかなり順調だったように思われました。また、ゴミ処理、駐車場確保の問題なども危惧されましたが、実行委員の細やかな対応によりスムーズな運営ができました。ゲストのダイチさんのライブでのヒューマンビートボックス、ボイスパーカッションはオーディエンスと一体となった盛り上がりを見せました。各部活動等のパフォーマンスも大盛況でした。

昨年度は学生会合同企画として「バルーンリリース」を行い大変好評でしたが、本年度の学生会との共同企画は「ライトアップオブジェ」でした。なんともロマンティックが止まらない、素晴らしい企画だったように思いました。学生諸君が感動の色を隠しきれない姿をさらけ出していたのが印象的でした。



第52回高専祭を実施して

高専祭実行委員長 4E1 清水 聡太郎

今回の高専祭は、JOKERというテーマで実施しました。高専祭期間を通して、みんなが楽しめる高専祭にできたと感じています。テーマ通り、多くの学生や実行委員が楽しんだり楽しませたりして高専祭を盛り上げてくれたと思います。今年は音鍵研究会の発表や、展示のところでロボット部にロボットのデモを行ってもらい、それが高専生らしくて、発表の場を設けてよかったなと感じます。さらに、2日目のゲストとして、ヒューマンビートボックスのDaichさんや、ライブでのすごい盛り上がりで、このような企画に委員長として実施できてよかったと感じました。それに加え期間中大きな問題も起きずに無事に終わることが出来て本当によかったです。

今年、僕にとっては実行委員4年目になります。1年生のころから実行委員として高専祭に携わり、沢山の先輩後輩や先生から沢山のことを学びました。そして今年はその実行委員の委員長として務めることになりました。準備期間も含め、全体のトップの委員長として全体をまとめていくことはとても難しく、多くの失敗もしました。それでも多くの実行委員の手助けがあって、無事高専祭を終わらせることが出来ました。皆の手助けがあったからこそ成り立った高専祭だと思います。このような経験をさせてもらい、本当にありがとうございました。この経験を今後の学校生活の中でも生かしていきたいです。



球技大会

球技大会を通して

球技大会長 2C 前田 浩 嗣

今年も10月7日の金曜日に、第一体育館、第二体育館で球技大会を実施しました。今年の球技大会は、バスケットボール、ソフトバレーボール、フットサルの三球技で行いました。今年は昨年とは異なりバレーボールが、ソフトバレーボールに変わり、みなさんがバレーボール同様に楽しんでくれるか不安でした。当日を迎え実際ソフトバレーボールを実施してみると初心者の多いチームでも、ボールを繋いでラリーが続いていたため、ソフトバレーボールにしてよかったと感じました。また、今年は選手交代をする場合は試合を開始してから3分間たってからでないと交代できないというルールを作りました。そのため、たくさんの方が試合が始まってすぐ交代するということがなくなり、少しでも長く球技大会を楽しんでもらえたかと思います。良い点もありましたが悪い点もありました。今年も昨年同様、不戦勝のチームが多かったと感じました。また、ソフトバレーボールの女子の得点でルールがあいまいなところがあり、みなさんに迷惑をかけてしまいました。このように、悪い点も上げられますが、大きな問題も起きず、終えることができました。これは、今年も先生方が協力してくださったり、実行委員が臨機応変に対応してくれたおかげだと思えます。今年した失敗や反省点、良かった点などを来年の球技大会長に引き継ぎ、今年の球技大会よりもよりよい球技大会にしてもらいたいです。最後に、球技大会がうまく進行できるよう協力してくださった先生方、審判をしてくださった部活動の方々、球技大会前から働いてくれた実行委員の方々、本当にありがとうございました。



弁論大会

弁論大会を終えて

文化長 3E1 稲葉 棕 子

10月13日に第一体育館にて弁論大会が行われました。

私は、昨年は文化委員として運営していましたが、今年は文化長として参加しました。文化委員会、選手会議を開いたり、また一人の文化委員としてテーマ募集のためにクラスのみんなに声をかけたり、選手を決めたりと、昨年とはくらべものにならない程大変でした。

前日の会場準備では、学生主事団の先生方をはじめ、文化委員、高専祭実行委員の方々のおかげで例年より早く準備し、リハーサルを行うことができました。

そして迎えた弁論大会当日。プレッシャーに押しつぶされそうになったところを、友人や先輩からの「頑張ってね」の一言があったおかげでほとんど緊張することなく、リラックスして司会進行を行うことができました。

学生のディベートでは、例年あまりなかった、聴衆側が積極的に盛り上げ、選手にエールや拍手を送る様子が見られ、各クラスの団結力も見ることができました。

また、エキシビジョンマッチでは、学生のディベートとは違ったパフォーマンスで、予想をはるかに超える盛り上がりとなり、聴衆や、審査員の先生方を十二分に楽しませてくれました。

そんなこんなであっという間に弁論大会が終わり、たくさんの方々のおかげで大成功させることができました。

最後になりましたが、弁論大会を運営するにあたってご協力くださいました先生方、学生のみなさん、そして私を支えてくださった先輩や後輩、友人に心から感謝します。本当にありがとうございました。



活躍する仲間

高専祭 活躍する



仲間たち



活躍する仲間

クリーン大作戦

クリーン大作戦を実施して

厚生長 3C 竹澤 亮真

今年も事故や問題が起こることなく、無事にクリーン大作戦を終えることができました。参加、協力してくださった学生、ならびに教職員の皆さん、本当にありがとうございました。

今年は、晴天ですが少し肌寒いと感じる中での実施でした。出発前は、長袖の上着を着ていた方も約1時間の清掃活動を終えて、学校に帰ってくるころには、上着を腰に巻き、身も心も温まったような様子で、達成感に溢れた表情をしているように見えました。参加者に実施したアンケートの結果では、「良い運動になった。」「気持ちが清々しくなった。」「景色を見ながらの清掃活動は楽しかった。」「疲れたけど楽しかった。また参加したい。」など、前向きな意見が多数、寄せられました。また、各クラスから2名以上の参加者を募りましたが、3名、4名と予想以上に多くの学生が参加してくれたクラスもあり、総勢77名での活気溢れる活動となりました。

ゴミ拾いは、決して楽なことではないし、こういったイベント等がないと「ゴミ拾いをしよう!」という考えには、あまりならないと思います。しかし、この活動を通じて「この街をキレイにしたい。」という意識が広がっていけば、人も地域も、より成長していけるのではないのでしょうか? 今回の活動を見て、少しでも興味を持った方は、是非、次回に参加してみてください! 必ず良い経験が得られますよ。



防災交流

災害時グルメコンテスト

防災交流長 3M 久野 万由子

今回私は防災交流部門長を務めることになって、最初はとても不安でした。

災害時グルメコンテストという企画をすることが決まって、企画当日の実行委員の動き等が大変そうというのは想像が付きましたが、準備がこんなに大変だとは思っていませんでした。

災害時グルメコンテストは、限られた時間と食材で災害時を想定して料理を作り、その味やアイデア性を評価する企画です。まずは参加者を募るため、鯖江市の防災士の会を介して地域の方々に声をかけました。なるべく多くの人に興味を持ってもらえるように、ポスターも作成して配布しました。次は、後援の依頼です。福井高专や鯖江市、防災士会などの5つの依頼先に資料を提出をしました。鯖江市役所の方にも何度か行きました。この後も、思っていた以上に色々な書類や依頼が必要で、私は初めて企画を作ることの大変さを知りました。地域の人と関わりながら物事を進めていくということは、色々な人に協力してもらうということで、色々な人との関わりや話し合いを重ねるのが大事だということに改めて気付くことができました。

災害時グルメコンテスト当日は、順調に企画を進めることができ、当日までにトラブルもあつたけれど、無事に終わることができました。達成感と周りの方々への感謝を、これからも忘れないでいきたいです。



平成28年度 キャンパスプロジェクト概要一覧

学年	学 科	代表学生	テ - マ	連絡教員	交付金額(円)
5	機械工学科	山崎 港大	コンテスト製作物の展示台作製	亀山建太郎 (機械工学科)	137,000
5	電子情報工学科	前田 勝紀	教員向け居場所確認用のLED ディスプレイの製作	小松 貴大 (電子情報工学科)	83,000
4	機械工学科	志尾 諒	昇降機	村中 貴幸 (機械工学科)	94,000
4	機械工学科	中原 圭悟	五味先生、畑はじめるってよ。	五味 伸之 (機械工学科)	58,000
3	環境都市工学科	長谷川陽紀	木製トンボとトンボ置き場の整備	辻野 和彦 (環境都市工学科)	100,000
2	電気電子工学科	谷口 真一	校歌をより身近に	川上 由紀 (電子情報工学科)	72,000
				計	544,000

進路決定について

「キャリア形成と進路」

キャリア支援室長 芳賀正和

2017年春卒業生の就職・採用活動のスケジュールは2年連続の変更となり、「広報活動」は3月1日以降のままでしたが、「採用活動」が6月1日以降に前倒しされました。しかし、実質的な採用活動には余り影響無かったように思います。

ところで、今年は企業側の人手不足もあり、本校に対する求人は好調を維持しています。しかし、就職試験の可否においては、人材の選別が厳しくなっています。コミュニケーション能力、自己分析と自己PRの能力、自分の意見を主張しながら協調性を持つことなどが要求され、それらを判定する面接の重要度が増しています。このような能力は短期間で身に付けることが出来ませんので、低学年のうちから計画的に自分のキャリア形成を意識して、自己PRの材料の蓄積に努め、自信を持って主張できるようにしておくことが必要です。

本校では、以下に示すように、みなさんのキャリア形成に役立つ行事を用意しており、その多くはキャリア支援室が中心になって実施しています。

- 1年生：キャリアガイダンス
企業経営者講演会
知的財産に関する講演会
- 2年生：先輩講座
校外研修
先輩フォーラム

- 3年生：明るい選挙出前塾
研修旅行
- 4年生：知的財産に関する講演会
校外実習（インターンシップ）
就職対策講座
- 5年生：労働法に関する講演会
- 進学対策：大学・大学院合同説明会
- 就職対策：キャリア教育セミナー

また、進路情報の提供方法として、昨年より「全国高専共通利用型進路支援システム」を活用しています。学内外のパソコンからアクセスできますので、求人情報の検索にとどまらず、インターンシップの希望先を探す時や、キャリア教育セミナーの前に行う企業研究などにも利用して下さい。

みなさんが進路決定に至るまでには、不安に思うことがたくさんあるはずですが、自分の周囲の人と良く相談して、出来るだけたくさんのアドバイスを求められるようにしましょう。また、みなさんが決めた進路は、保護者や家族のみなさんにも多大な影響を及ぼします。保護者や家族とも綿密に意思疎通を図り、みんなで納得しあえる進路決定にしましょう。

学生の将来と進路

平成28年度進路内定状況

平成28年11月11日現在

学科	区分	卒業・修了 予定者数	進学 希望者数	内定者数			未定 者数	就職 希望者数	内定者数		未定 者数	その他
				大学(院)	専攻科	専門学校等			県内	県外		
本科	機械工学科	34	14	8	6	0	0	20	8	12	0	0
	電気電子工学科	33 (1)	15	10	5	0	0	18 (1)	5	13 (1)	0	0
	電子情報工学科	37 (8)	11(1)	6(1)	5	0	0	26 (7)	7 (4)	19 (3)	0	0
	物質工学科	40(16)	18(4)	12(2)	6(2)	0	0	22(12)	7 (3)	13 (9)	2	0
	環境都市工学科	33(14)	12(3)	4(1)	8(2)	0	0	21(11)	6 (4)	15 (7)	0	0
	小計	177(39)	70(8)	40(4)	30(4)	0	0	107(31)	33(11)	72(20)	2	0
専攻科	生産システム工学専攻	12	4	4		0	0	7	3	4	0	1
	環境システム工学専攻	13 (4)	3	3		0	0	10 (4)	8 (4)	1	1	0
	小計	25 (4)	7	7		0	0	17 (4)	11 (4)	5	1	1
合計	202(43)	77(8)	47(4)	30(4)	0	0	124(35)	44(15)	77(20)	3	1	

表中の()は女子数で内数



大学編入学試験体験記

編入試験を終えて

5E 岸下 健太

私が大学編入への勉強を始めたのは4年の11月ごろからだった。今までテストで点数を取るためだけの勉強しかしていなかったので、道のりは険しいものだった。そして、胃に穴を開けたりしながらも受験日を迎えた。

第一志望の受験当日、数学の試験で過去問の傾向とは全く違った問題が出題され手が止まってしまった。知る限りの過去問では線形代数しか出ていなかったため、ネットで見た「今年も線形代数が出るでしょう!」という言葉信じてしまっていたことを後悔した。制限時間ギリギリまで計算し続けたところ、なんとか7割ほど点数を取ることが出来た。専門と英語には自信があり、そのおかげか合格する事が出来た。

これから編入試験の勉強をする方が多くいることだろう。早く勉強するということも重要だが、どう勉強するかということも重要である。過去問を解くよりも参考書などで基礎を重点的に固めるべきである。過去問やその傾向が通用するような年もあるだろうが、過去問とは全く違った問題が出る年もある。過去問は時間があったら解くぐらいにし、問題の傾向を信じるということはやめておくといい。

また、共に勉強する仲間を多く作ってほしい。一人だけでモチベーションを保ちながら勉強を続けるのは困難だろう。分からない問題を教え合うことで、仲間同士の気持ちを高め合っていくことが出来ると思う。ぜひ、合格をつかみ取ってくれることを願う。

最後に、編入に対する焦りや不安のストレスで胃を傷める人もいるでしょう。その場合、早めに受診することをおすすめします。痛みで睡眠がまともに取れなくなり大変です。

就職試験体験記

就職活動を通して

5C 田中美和

私が就職活動を通して最も大切だと思ったことは、「自分の強みを作る」ということです。強みとは、勉強やスポーツ、コミュニケーション力など人それぞれです。低学年の時から書いているポートフォリオを参考に、自分の強みを見つけることにより、履歴書を書く時や面接をする際に役立てることができます。また、この強みが自己PRにつながり、自分を知り、分析することができます。

私の強みは「努力家」「真面目」であることです。試験前や資格検定を受ける際に、こつこつと勉強を積み重ねる努力を怠りませんでした。私の就職先はパナソニックA I S社で、この会社には4年生の時にインターンシップにも行きました。インターンシップでは挨拶などの基本的なことから、技術的なこと、発表のコツなどたくさんのお話を学ぶことができました。インターンシップは企業に滞在する時間が長いので、企業の仕組みや雰囲気を感じることが出来ます。また、企業は学校と違って在籍する人の年齢の幅が広いので、色々ためになる話を聞くことができました。企業を知るためにもインターンシップ先は慎重に選ぶべきです。

5年生の就職活動で気をつけて欲しいことは応募書類の期日を守ることです。チャンスを無駄にすることなく、書類は早めに出すことをお勧めします。面接試験では、面接官は学生が本当にこの企業に入りたいと思っているかをよく見ているので、自分の考えを素直に伝えれば、面接官の方も納得されると思います。

今回の就職活動では、社会人になるための基礎知識やマナーを学ぶことができました。高専で学んだことと自分の強みを活かし、会社に入ってから日々自分を磨いていきたいです。

学生の将来と進路

インターンシップ体験記(本科)

校外実習を終えて

4M 吉村 昂 紘

私はこの夏休みに、株式会社日本製鋼所広島製作所で8月22日から31日までの十日間、校外実習に行ってきました。実習はその中の株式会社日鋼テクノで行ってきました。

この会社はプラスチックの原料となるペレットを製造する大型造粒機や射出成型機を設計から製造、販売、アフターサービスまでを一貫して行っています。私はその中の株式会社日鋼テクノで実習をさせていただきました。主な実習内容はリンクピンの製造ラインにおける工程調査を行い、改善点を見つけるといったものでした。リンクピンとは、射出成型機のアーム同士の接続部品のことです。工程調査を行う際に注目する点として安全面、作業効率を上げる改善点、工程数の削減などがあります。私達はこの実習で安全面や工場の照明についての改善案、新しい機械の導入などの提案をすることが出来ました。生活面では、会社が準備して下さったホテルで2週間過ごしましたが、1日が終わると毎日他校のインターン生の人達と一緒に食事をしたり、休日には遊びに行ったりと研修以外にも充実した時間を過ごすことが出来ました。また会社の方々と食事をした際には、就職や仕事のことなど多くのことを話すことができ、今後の進路を選択する大きな助けになりました。

今回の校外実習では座学で学んだ知識はあったが、それを実習の時に発揮することができませんでした。そのため今後は学んできた知識を使っての設計や製作を行い、ものづくりのセンスを磨いていき、今後の進路選択や就職活動に生かしていきたいと思いました。

インターンシップで学んだこと

4B 加藤 颯

私は、9月5日の月曜日から9月16日までの、土日を含めた10日間、福井県福井市の坂川建設株式会社の建築部のほうにお世話になりました。坂川建設は土木7割、建築3割の割合で業務をしており、県下では有名な会社である。

初日は、本社のほうに出勤し、インターンシップのおおまかな日程を説明していただき、作業着に着替え、お世話になる5つの現場へ挨拶回りに出た。挨拶は基本中の基本だが、初対面の時の会話が大切であると感じた。長い付き合いになる人とは、時間をかけて打ち解けていけばよいが、インターンシップのような短期間の付き合いでは、時間をかけることはできないので、最初から親しみやすい関係を作るため、初対面の会話が大切だと感じた。

実習が2日目より始まり、慣れない環境で仕事をしていくなかで、いくつかのことに気づいた。

1つめは、職人と現場監督間のコミュニケーションのとり方がすごくうまいということだ。お互いに相手の仕事の穴を指摘しているのに、嫌な顔を一切見せず、自分のミスを認め、仕事を進めていっている。仕事だから、大人だからと言ってしまえば、それはそうだと終わってしまうのだが、やはり難しいことであると思う。だから見習うべきだと感じた。

2つめは、職人の仕事に対する意識の高さだ。特に職長は他の方と比べて人一倍、責任が強く、仕事に誇りをもっていた。その考え方はすごくかっこいいと思うし、そう思えるような仕事をしたいと思った。

今回のインターンシップを通して、ここには書ききれないくらいの多くのことを感じ、学んだ。私はこの経験を活かして、よりよい技術者を目指したい。

インターンシップ体験記(専攻科)

国際学会に参加して

1PS 高山 暁 生

私は、奈良先端科学技術大学院大学のストレス微生物科学研究室でインターンシップを行いました。

研究室での研修は大変有意義なものでしたが、さらに貴重な経験をする事ができました。それは、「第14回酵母国際会議」への参加です。4年制大学の学部3年生では決してできない経験でした。研究室の高木博史先生が主催者であったため、幸運にも参加することができ、とても多くのことを学ぶことができました。

自分と2・3歳差しかない人たちが、積極果敢に外国人とディスカッションしている様は圧巻でした。私自身、ディスカッションにはなかなか加わることができず、語学勉強の必要性を大いに感じるとともに、大学院生の方々のレベルの高さを実感し、専門分野への勉強不足も痛感しました。また語学に関わらず、物事へ積極的に参加していく度胸の大切さを感じました。高専6年目となると、周りの環境はほとんど変化しません。初めての環境に入っていくことは久しぶりであり、コミュニケーションをとることに苦労しました。後輩達には、新しい環境に加わっていくことで、コミュニケーション力を養ってほしいです。さらに、先日ノーベル賞を受賞された大隈良典先生の講演を聞くとともにお話する機会もあり、大変素晴らしいインターンシップとなりました。

インターンシップを行う前は不安なことはいっぱいでしたが、いざ研修を行ってみるとそんなことは全くありませんでした。もちろん大変なことはいっぱいありましたが、それ以上に得るものの方が大きかったです。これからインターンシップを行う学生は、是非楽しみにしておいてください。進路を考えていく上での良い判断になるとともに、これからは覚悟をもたらしてくれることは間違いないです

海外インターンシップ体験記

1ES 上木 裕 友

私は、マレーシアで約4週間海外インターンシップを行いました。今回は、あわら市に本社がある株式会社エイチアンドエフという企業のマレーシア支部にあたるHZF Services (Malaysia) Sdn. Bhd.で研修を行わせていただきました。主な研修内容は、本社が現地の企業に納めているプレス機械におけるアフターサービスの見学及び実習で、その際にマレーシアの様々な企業へ訪問しました。その中で、プレス機械のメンテナンスのために、マレー半島最南端の都市まで一泊二日で行く機会がありました。その研修は日本人の方の付き添いがなかったため当初は不安でしたが、現地の方たちと英語やジェスチャーでコミュニケーションを取りながらスムーズに作業することができ、充実した研修となりました。生活面については、料理の味付けや水まわりの不便さに苦労することがあり、日本での生活がいかに快適であるかを実感しました。

海外へ行くのは私にとって初めてのことであったため、今回の研修では実務を経験するだけでなく、海外で暮らすことの大変さや現地の人とコミュニケーションが取れたときの喜びを感じることができました。これを機に、今後の活動においても海外に視野を向け、将来有望なグローバル人材となれるよう励んでいこうと思います。最後に、このような経験の機会を与えてくださった先生方並びに学生課職員の方たちにお礼申し上げます。



学生の将来と進路

ISTS2016に参加して

ISTS2016での経験

2PS 吉村拓也

10月4日～10月12日にインドネシアのジョグジャカルタで開かれたISTS2016に参加しました。ISTS2016では前半にポスターかオーラルで自分の研究について発表を行い、後半では企業見学、観光、ワークショップを行いました。どの日も一日のスケジュールが詰まっていたハードな研修でした。

ISTS2016では全国の高専から専攻科生や5年生が集まり、インドネシア、マレーシア、フィンランドなど様々な国から学生が集まりました。話し合い発表はもちろん英語で行われ、高専生は英語は苦手と言われていますが、ISTS2016に参加していた学生は英語を話している学生が多く、考えていることをやっとの思いで相手に伝えられた自分とでは差があり、自分の考えていることを伝えられるようにするために英語を勉強しないといけないと感じました。

今回の研修で様々なことを経験しました。ISTS2016に参加している学生は様々な分野から来

ていて、それぞれの分野の知識や研究を知ることが出来ました。また、グループワークでは違う国籍の学生と組み話し合いを行うといった経験が得られ、このグループワークは高専在学中では行えないためとても貴重な経験が出来ました。英語での論文投稿、ポスター作り、グループワークといったことがありますが、たくさんの事を得る事が出来るので来年のISTSには積極的に挑戦してほしいと思います。



タイ王国プリンスオブシンクラ大学工学部の短期留学生を受け入れて

指導教員 小越咲子

5月20日タイPSUから留学生がきました。Lucksika Losuvalnaという名前が本名ですが、愛称はJoiさんと言います。

その日、国際交流室の北さんと一緒に鯖江駅にJoiさんを迎えにいきました。笑顔の可愛い優しい女の子が電車から降りてやってきました。高専につくと、総務課の皆様が拍手で花道をつくって迎えてくださり感動しました。また、研究室の学生がタイ語でWelcomeボードを作って迎えてくれました。学科で決めたJoiさんへのタスクは、実験で使っている太陽光パネルからの出力を測定をしてデータを取りこみ表示するシステムを開発することだったのですが、彼女がすぐに完成させたので、斉藤先生から、モニタリングシステムの開発の追加課題を頂きました。また西先生からもライトレースの課題を頂き、両方とも完成させました。その他授業にも熱心に取り組み、大変優秀な学生でした。留学期間中は沢山の先生方がJoiさんへの企画を

して下さり多様な日本を満喫できたようです。7月31日、あっという間の留学期間が終わり、タイに帰国する日が来ました。鯖江駅にお別れの挨拶に行った時には、学寮の学生もきていて、本当に名残惜しそうで、この期間に熱い友情を育めたことを眩しく、嬉しく思いました。また私自身も沢山の方にご支援頂きました。この場をお借りして感謝申し上げます。(後で吉田先生から伺ったのですがJoiさんは日本の大学院への進学を決めたそうです。)



専攻科生による校外発表会(北陸技術交流テクノフェア)

シーズ発表を終えて

2ES 内藤 篤 哉

10月20、21日に福井県産業会館で北陸技術交流テクノフェア2016が開催された。このイベントは全国から企業・大学・研究機関等が出展する北陸最大規模の総合技術展示会である。今回、私たち専攻科2年生も日頃行っている特別研究を校外に向けて発表するため、このイベントに参加した。

私は、「電子吸引力スルホニル側鎖を有するフタロシアニン化合物の合成」というテーマで研究を行っている。恐らく、このテーマを聞いてどんな研究内容なのか理解できる人間は数少ないであろう。今回の発表の対象も一般の方であり、化学の知識を持たない人がほとんどであった。そのため、発表を聞きに来てくださった方は3時間で5,6人だった。多くの人に自分の研究を知ってもらおうという点におい

ては、失敗に終わった。学会発表を行った時は、同じ化学を専門とする人が集まっているため、研究内容を十分に理解して頂き、さらには助言までも頂いた。その経験とは全く異なり、少し戸惑った。

しかし、この失敗がよい経験となった。将来自分がエンジニアとなった時、必ず専門分野の内容を専門外の人にもわかりやすく伝える必要性が増えてくるだろう。そのとき、相手が理解できるレベルにまで噛み砕いて話すためにどのようなことを心がければよいのか、さらには、興味のない人でも興味を惹かれ、発表を聞いてくれるようにするにはどのような工夫をすればよいのか、この失敗を通して知ることが出来、大変有意義であった。



中学生の皆さんへ

： キャンパスツアー2016及びキャンパスリサーチ2016の実施について ：

教務主事 阿部孝弘

8月6日に「キャンパスツアー 2016」を、10月1日に「キャンパスリサーチ2016」を開催しました。どちらも、来春に本校入学試験の受検を考えている中学生とその保護者に対して、福井高専のことをよく知ってもらうためのオープンキャンパスです。

「キャンパスツアー 2016」には、中学生とその保護者の方々、中学校の先生方合わせて643名が、「キャンパスリサーチ2016」には中学生230名が参加しました。

「キャンパスツアー」は、本校にある5つの学科の特色や内容を中学生の皆さんに知ってもらうために実施しています。1学科当たり20分の持ち時間で、各学科の施設を使ってデモ実験や学科に関する説明などのプレゼンテーションのほとんどを在校生が行いました。したがって、中学生の皆さんに入学後の5年間での学生諸君の成長ぶりを知ってもらうための場でもありました。また、在校生との「交流コーナー」もコースの中に設け、フリートークを通して福井高専の学生生活を知っていただきました。アンケートからは本校学生のプレゼンテーション力の高さに感心する意見が多くありました。

「キャンパスリサーチ」では、中学生の皆さんが希望する2学科の授業を50分間ずつ体験しました。

各学科の特色に応じたデモ授業を学科の教員が直に中学生の皆さんに話をしました。実験やモノづくりの体験を多く取り入れて、本校の特色である演習・実験科目の内容の一部を知ってもらったこととなります。デモ授業を体験し、それらの内容に非常に興味を持ったという意見が多くありました。また、希望者に対して本校女子学生の懇談会も開催し、学生生活や授業の内容に関しての生の声を聞いてもらいました。

本校では、5月に開催した「キャンパスウォーク2016」を含めて、3回のオープンキャンパスを実施しています。「キャンパスウォーク」では福井高専の施設や部活動の見学を通して本校に興味をもってもらい、「キャンパスツアー」では各学科の特色を知り、そして「キャンパスリサーチ」では志望学科のデモ授業を体験し、本校への進学意志を固めてもらおうという趣旨で行っています。

オープンキャンパスに協力をしていただいた在校生の皆さん、本当にありがとうございました。皆さんの説明を聞いた中学生の一人でも多くが、来春には本校に通学してくることを切に希望します。



キャンパスツアー2016 機械工学科の様子



キャンパスリサーチ2016 環境都市工学科の様子

中学校だより

「伝統 校歌の輪」

あわら市立 金津中学校

あわら市金津中学校は、福井県坂井平野の北部、石川県境に位置しています。近くを竹田川が流れ、学校の周辺には田園風景が広がるのどかで、緑豊かな環境にある学校です。そんな豊かな環境の中で育つ金津中学校生は、素直で純粋な生徒たちです。

学校の活動には、朝読書・ベル着学習・掃除の黙働・帰りの会の黙想等、自己を見つめる時間を持ちながら、落ち着いた学校生活を送っています。

生徒たちの一日は、玄関に立っておられる校長先生とのあいさつからスタートします。校長先生とちょっと立ち話をして校舎に入って行く生徒の姿が見られます。「いつでも・どこでも・だれにでも」のあいさつを心掛けながら生徒たちは学校生活を送っています。

そんな生徒も年に一度の学校祭では、随所に創意工夫を凝らして自分を精一杯アピールします。体育祭では、閉会式で毎年恒例の校歌がうたわれます。2、3年前までは、「声が小さい。」「元気がない。」

という声があったのですが、昨年あたりから団長同士が肩を組んで校歌を歌ったり、各色が肩を組んで歌ったりするようになりました。今年は、全校生徒が肩を組み全員で大きな輪を作って、大きな声で校歌を歌う姿が見られました。

生徒一人一人の顔は達成感に満ち溢れていました。

これからも金津中学校が活気にあふれ、生徒たちの手で新しい伝統を創っていくことを願っています。



救急救命講習会・実技講習会について

救急救命講習会を受講して

5B 西野 亜海

私は高専に5年間存学していますが、今回初めて救急救命講習会を受講しました。今回の講習会は夏に行われたので熱中症とAEDの使い方について学びました。熱中症は暑さを避けたり、水分を取ったりするなどの初歩的な対策については知っていましたが、講習会を受けることで熱中症の怖さや後遺症、具体的な対策方法など改めて確認することができました。私はソフトテニス部に所属していますが一回も熱中症になったことがありません。それは、こまめに水分補給と適度な休憩を取ることを心がけていたからだだと思います。今後もスポーツを続けていくつもりなので、熱中症になることがないように、今回学んだことを心がけていきたいと思っています。

またAEDの使い方についても学びました。AEDの使い方については以前聞いたことがあったので、ある程度は知っていましたが、実際に目の前に倒れている人がいると想定して、AEDを使うまでの一連の流れを体験しました。ここでは、人に適切な指示を出すこと、心配蘇生法をいかにスムーズに行

うかが重要であることを学びました。鯖江消防署の方がとてもわかりやすい見本を見せてくれたので、流れをより理解することができました。

初めて参加した救急救命講習会でしたが、多くのことを学ぶことができ、また知っていることについて再確認することができました。このことを今後生かしていきたいです。



学園通信

平成28年度 防災訓練の実施について

総務課

本校では、10月5日（水）に鯖江・丹生消防署協力のもと全校学生・教職員が参加し、緊急地震速報の後、地震の発生と地震に伴う火災が発生したとの想定で防災訓練を実施した。当日は雨天のため、避難場所は第一体育館とし、「緊急地震速報対応訓練」、「通報（連絡）訓練」、「初期消火訓練」、「避難訓練」及び「負傷者搬送訓練」を実施した。

避難場所で学生と教職員の安否確認の後、校長より「災害や天災は、いつどんな場所や規模で起こるか分からない。命を守るため、被害をできるだけ少なく、減災や防災について我々はどう向き合っていくか確認する機会とし、意識して学生生活を送ってほしい。」との訓辞があった。

また、消防署からは、「万が一のとき、慌てず冷静に避難すること。いざという時に適切な行動ができることが大事である。災害は忘れた頃にやってくる。災害が発生するのは防げないが、命を守るための備えは心がけて欲しい。『訓練は本番の気持ち』で、

『本番は訓練の気持ち』で余裕を持って行って欲しい」との講評があった。



「地震が発生（想定）」し、机の下に潜って身を守る学生



講評をする鯖江・丹生消防署員

平成28年度 学寮防災訓練の実施について

寮務主事 中谷実伸

学生寮では、「火災等の災害時において、速やかに通報及び避難、消火ができるように防災訓練を行い防火意識の高揚を図る」目的で、8月3日（水）、鯖江・丹生消防組合消防本部の協力のもと全寮生が参加し、中央棟寮生会室から火災発生したとの想定で通報訓練、避難訓練を実施しました。

避難場所での点呼確認後、寮務主事より訓辞があり、消防消本部からは、「騒ぐことも慌てることも

なく、ほとんどの学生が口にタオル等を当て、非常に真剣な避難であった」との講評がありました。

通報訓練、避難訓練の後、1年生（男女5名）、留学生（3年生3名）が消火器による消火訓練と5年生全員が屋内消火栓による放水消火訓練を行いました。



消火器訓練を行う寮生



消防署員から屋内消火栓の操作方法を聴講する寮生

✧ 本校に着任して ✧



本校に着任して

総務課施設係

内 田 郁 夫

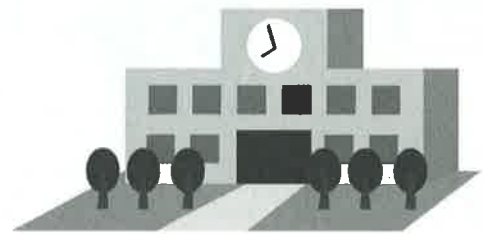
初めまして、10月1日で福井高専総務課施設係長に採用された内田郁夫と申します。

前任は福井大学で、昭和58年4月1日に福井医科大学施設課に採用されて以降、統合後の福井大学環境整備課と施設企画課でお世話になりました。

本校に着任して2週間経過しましたが、給水設備及び電気設備で劣化によるトラブルが発生し、ライ

フラインの重要性を再認識しました。施設係の今後の方向性としては、ライフライン改修及び基幹整備を計画的に実施し、施設の長寿命化に取り組み、省エネルギーについて可能なものから実施し、光熱水費及び維持管理経費削減に繋げる取組みが重要なのではと考えています。

まだ知らないことやわからないことが多く、皆様に質問等をさせていただくことがあるかと思いますが、微力ながら福井高専発展のため全力を尽くす所存ですので、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



弁論大会・クリーン大作戦等風景



弁論大会①



弁論大会②



球技大会



クリーン大作戦①



クリーン大作戦②



クリーン大作戦③